

# 造血幹細胞移植看護に関する当病棟看護師の現状調査 ～移植ファイルの修正・作成への取り組みの調査結果から～

Floor nurse' s current consciousness survey concerning

Blood formation stem cell transplant nursing

東7階病棟 太田まさえ 阿部里美 五味幸恵 牛越さゆり 中西美佐穂

## 《要旨》

当病棟は造血幹細胞移植専門病棟であり、移植件数は年々増加している。病棟には「移植マニュアル・パンフレット（以下、移植ファイルと略す）」があり、移植（前・当日・後）の看護、また退院支援の内容などが記載されている。これらは、近年見直しの機会がなかったため、活用しにくい状況があった。そこで今年度、スタッフ全員で見直し・追加作成に取り組んだ。

移植ファイル見直し・追加作成後のアンケート結果では『使用しやすい「移植ファイル」になった』という意見を得た。現在、見直し・追加作成後の移植ファイル活用により、患者がより安心できる看護を提供できるようになってきている。

## 《キーワード》

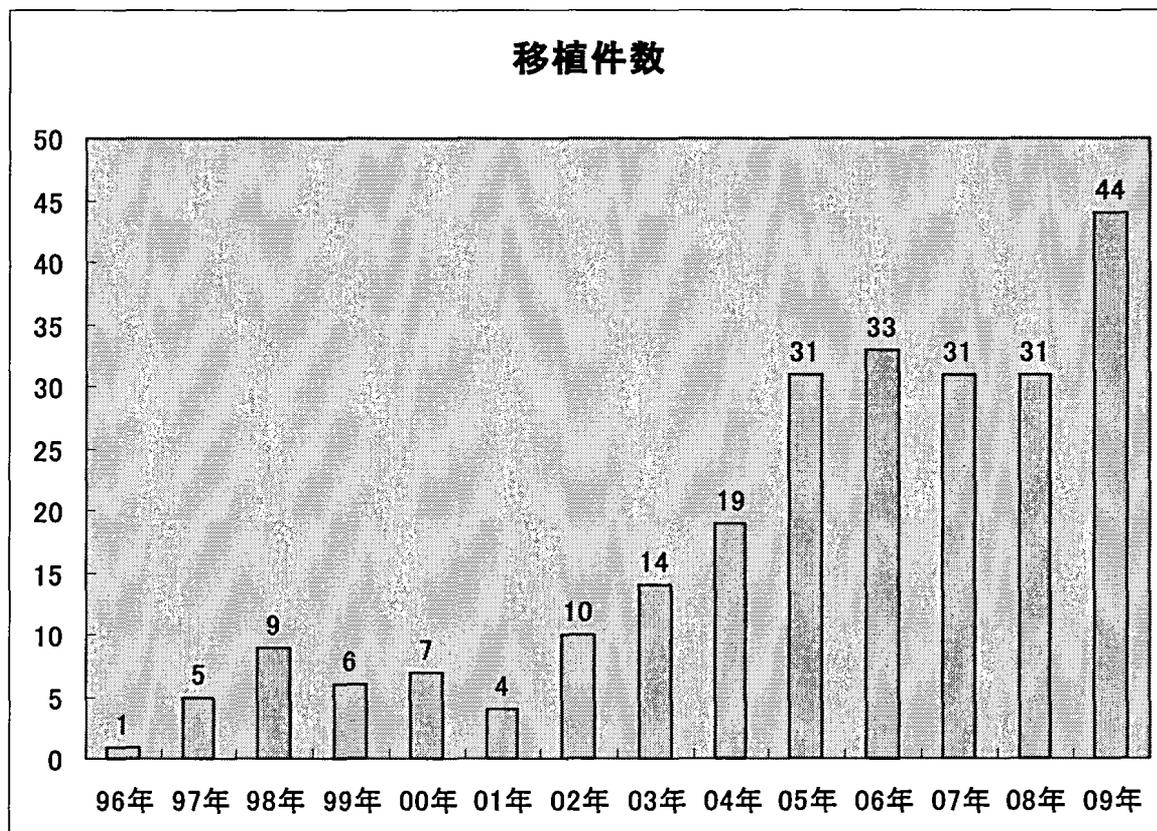
移植ファイル アンケート調査 造血幹細胞移植看護の質保証

## I. はじめに

当病棟は造血幹細胞移植専門病棟であり、1996年からの移植件数は年々増加している。造血幹細胞移植とは、白血病・リンパ腫・骨髄異型性症候群などの疾患に対する治療方法である。移植の種類は、骨髄移植（血縁者・非血縁者）、臍帯血移植、末梢血幹細胞移植（自家・血縁者）等がある。移植看護については、病棟独自の「移植ファイル」があり、移植前処置の作用・副作用に関する患者用パンフレットや移植当日の看護手順・クリーンルームのパンフレットなどの内容がある。近年見直しの機会がなかったため、内容の追加・修正不足、指導用パンフレット項目の不足などにより有効活用出来ていなかった。そのため、特に新人看護師や部署異動の看護師は、移植看護に関して拠り所となるものがなく、経験のある看護師の指導・伝達により看護を行っている状況があった。また、近年看護師の増員に伴い、移植看護経験が少ない看護師が増えてきており、移植看護の質保証のためには、移植ファイルの修正・作成や、それらの活用が有効であると考えた。今年度の病棟目標は、「造血幹細胞移植の専門病棟として、患者が安心できる看護を提供できる」であり、病棟看

護師全員で移植ファイルの検討・作成に協力して取り組んだ。移植ファイルの修正・作成前後に、アンケート調査を行い、当病棟看護師の現状を明らかにしたので報告する。

図1. 移植件数グラフ



## II. 研究方法

期間：平成21年8月～12月

対象者：当病棟看護師30名（師長を除く）

方法：1. アンケート調査（移植ファイルの修正・作成前）：9月

2. 移植ファイルの修正・追加作成：9月～11月

3. アンケート調査（移植ファイル修正後）：12月

4. アンケート分析：12月

アンケート目的：移植ファイル修正・追加作成前後で、移植ファイルの活用状況や患者支援方法に変化があるかを明確にするため。

### Ⅲ. 倫理的配慮

アンケート調査は無記名で行い、研究者により厳重に管理され、研究以外に使用しないこと、参加は自由意志であり、参加しなくても不利益が生じないこと、アンケートの提出により研究に同意が得られたこととすることを、対象者に口頭と文書で説明を行い、同意を得てから実施した。また、当院の看護研究倫理委員会にて審査を受け承認を得ている。

### Ⅳ. 結果

#### 1. アンケート結果（移植ファイル修正前）：9月

配布数：30枚 回収率：80%（24枚）

- |                                 |           |
|---------------------------------|-----------|
| 1) 移植患者の受け持ち看護師となった経験がある        | 92% (22人) |
| 2) 移植ファイルの使用状況について              |           |
| 使用したことがある                       | 96% (23人) |
| 使用したことがない                       | 4% (1人)   |
| 3) 移植ファイルの活用目的について（複数回答可）       |           |
| 移植当日の看護に活用している                  | (20人)     |
| 退院支援に活用している                     | (21人)     |
| 4) 移植ファイルの活用しにくい理由（自由記載）        |           |
| ・見出しがなく、どこに何が入っているかわかりにくい       |           |
| ・内容が変更されていない                    |           |
| ・使わない資料があり、整理されていない             |           |
| ・患者用パンフレットが少ない                  |           |
| ・手順や観察の根拠となる内容がないため、エビデンスが明確でない |           |

#### 2. 移植ファイルの修正・追加作成：9月～11月

スタッフ全員で行えるように役割分担を明確にし、提出期日や検討方法を統一して取り組んだ。また、修正前のアンケート結果をもとに、修正・追加内容の検討も行った。

##### 1) 取り組み内容

- ・既存の移植ファイルの修正実施
- ・新たに必要な内容について追加作成
- ・修正・追加作成後の内容については、定時のカンファレンスで検討を行った

- ・確認が必要な事項は、医師と協力して確実な内容とした

### 3. アンケート結果（ファイル修正後：12月）

配布数：30枚 回収率：73%（22枚）

#### 1) 移植ファイル修正後の活用状況の変化について

移植ファイルが活用しやすくなった	95%（21名）
変化なし	5%（1名）

#### 2) 活用しやすくなった理由について（自由記載）

- ・字が整理され、印刷も見やすくきれいになった
- ・知りたい内容の追加や修正箇所の見直しができ、知りたい情報が得られた
- ・今までなかった内容のものも、パンフレットを用いて説明できる
- ・古い内容や不要な内容が削除され、わかりやすくなった
- ・患者と看護師用の2種類のパスとなり、理解・説明しやすくなった
- ・表現が患者主体となり、わかりやすくなった
- ・ファイルを原本から探す手間がなくなり、使いやすくなった
- ・個々の患者にあった情報を加えて印刷できるので、使いやすいと思う
- ・より細かい内容になりわかりやすくなった

#### 3) 修正後の移植ファイル活用による患者支援の変化について

支援しやすくなった	77%（17人）
変化なし	23%（5人）

#### 4) 患者支援しやすくなった理由について（自由記載）

- ・支援に必要な内容が入っている
- ・食事内容の規制やクリーンルームの基準が分かった
- ・生活上の留意点についてあいまいな点がはっきりした
- ・自家・同種移植についてのパンフレットが別々となったため、注意点などの違いが分かりやすくなった
- ・スタッフ間で統一したケアに活かせる
- ・以前より、患者が理解しやすい記載内容になったため、看護師も理解しやすく説明しやすい

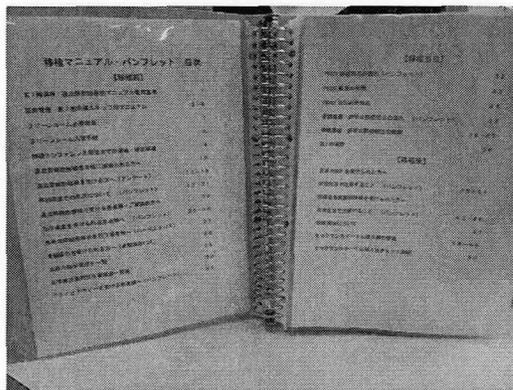
#### 5) 新人看護師や部署異動の看護師における、修正後の移植ファイルの活用について

使用しやすいと思う	91%（20人）
-----------	----------

どちらとも言えない 9% (2人)

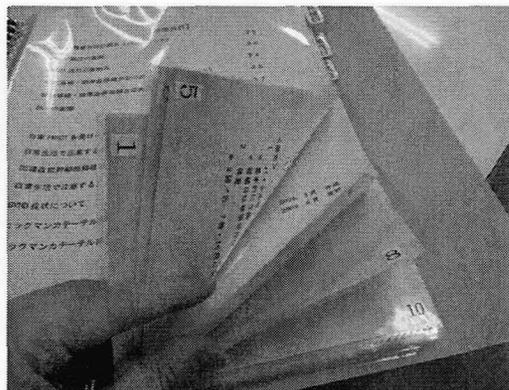
6) 使用しやすい理由について (自由記載)

- ・準備や指導がしやすくなった
- ・パンフレットを元に説明できるようになった
- ・自分自身も異動後であるが、ファイルの内容が理解できたので、新たに異動後の人にも説明しやすいと思う



《修正後》写真1

移植前・移植当日・移植後に分類し看  
護師の介入過程がわかるようになった



《修正後》写真2

一枚ずつファイルし、ページの番号表示を行った

## V. 考察

移植ファイル修正前のアンケートでは、回答者の96%が移植ファイルを使用したことがあると回答している。しかし一方では活用しにくい現状もあった。このことは、既存の移植ファイルが活用しにくい状況でありながらも、移植看護の拠り所として、唯一、使用できるファイルであったため、使用せざるをえない状況でいたと考える。造血幹細胞移植を行う専門病棟として、移植看護の拠り所となる活用しやすい「移植ファイル」を作成したいという思いは、病棟看護師の共通課題であったと考える。また、アンケート調査で、移植ファイルを活用しにくい理由について明確になったことは、自分たちが使いやすい移植ファイル作成の指針となったと考える。さらに、修正・追加作成した項目について、皆で検討したことは、記載内容の根拠を考える機会や、看護経験を活かした意見交換にもなり、記載内容の充実や学習の機会にもつながったと考える。医師に確認すべき事項については、医師と協力して取り組むことができ、チーム連携の強化にもつながった。

移植ファイル修正後のアンケート結果では、回答者の95%が「活用しやすくなった」と回答していることから、活用しやすい移植ファイルが作成できたと考える。また、活用しやすくなった理

由として、回答者の77%が患者支援に役立つと回答しているので、患者用パスの作成が効果的であったと考える。それぞれのニーズに応じた患者用パス・スタッフ用パスは、支援面での看護の充実につながってくると期待できる。しかし、修正後の移植ファイル活用による患者支援の変化については、23%が「変化なし」と答えており、現在、移植ファイル完成から2ヶ月経過の状況のため活用に差があり、評価する期間が短かったためではないかと考える。今後も、移植看護の質を保つ行動の一つとして、移植ファイルの追加修正を必要時に行い、常に活用しやすいものとしたい。そして、移植ファイルを日々の移植看護に有効活用し、今後はさらに新人看護師や部署異動した看護師の教育資料としても活用していきたいと考える。

## VI. 結論

スタッフ全員で移植ファイルの修正を行うことによって、知識の統一が図られ、造血幹細胞移植専門病棟として、患者がより安心できる看護を提供でき、移植看護の質向上につながってきている。

## VII. 参考文献

- 1) 北島加奈子他：術後患者の車椅子移動動作自立に対する援助の統一に向けて—アンケート調査から分かったこと—、信州大学医学部付属病院 看護研究集録：P155、2005
- 2) 野口美紀他：私にもできるPBSCT看護—化学療法に着目したスタッフ教育の効果—、第26回日本造血幹細胞移植学会看護研究集録集：P127、2003年12月